

第6回遊佐パーキングエリアタウン計画推進委員会 議事概要

1. 日時

令和4年6月1日（水）13:30～15:10

2. 場所

遊佐町役場 議場

3. 出席者（敬称略）

遊佐パーキングエリアタウン計画推進委員会

遊佐町商工会：阿部 副会長

NPO法人遊佐鳥海観光協会：佐藤 理事長

庄内みどり農業協同組合 遊佐支店：佐藤 支店長

一般社団法人酒田青年会議所：久木原 直前理事長

株式会社きらやか銀行 遊佐支店：鈴木 支店長

株式会社山形銀行 酒田支店：吉田 支店長

東北公益文科大学：温井 教授

遊佐パーキングエリアタウン調査特別委員会：高橋 委員長

遊佐町総合交流促進施設株式会社：池田 代表取締役

オブザーバー

国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所 調査第二課：後藤 建設専門官
(代理出席)

国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所 調査第二課：横山 専門官

酒田港風力発電事業者協議会：高橋 社長室長（代理出席）

庄内総合支庁 建設部 道路計画課：阿部 課長補佐（代理出席）

庄内総合支庁 建設部 道路計画課：松永 道路企画専門員

事務局

企画課 PAT 整備推進室：渡会 課長兼室長

地域生活課：太田 課長

産業課：友野 農業振興係長（代理出席）

企画課 PAT 整備推進室：池田 係長

企画課 PAT 整備推進室：伊藤 主事

パシフィックコンサルタンツ株式会社（PCKK）：桂田、渡邊、鳴海

4. 議事

■議事内容

1. 開会

2. 挨拶

温井委員長

- ・前回委員会から継続して、内（遊佐・庄内）と外（全国・東京の企業等）という視点がポイントとなる。ただの「道の駅」ではなく「PAT」である、という部分を踏まえて活発な議論をいただきたい。

3. 前回の振り返り【資料1】

事務局

- ・【資料1】にて、委員の皆様からいただいたご意見とそれに対する対応を整理している。
- ・【資料3】については、ヒアリング等調査の結果を踏まえて、追記している。

4. 協議事項

（1）道の駅 鳥海 移転整備事業に関するサウンディング調査ヒアリング調査結果報告書概要版【資料2】

～道の駅 鳥海 移転整備事業に関するサウンディング調査ヒアリング調査結果 報告書概要版【資料2】について説明～

（2）ヒアリングを踏まえた新道の駅の施設計画（案）【資料3】

～ヒアリングを踏まえた新道の駅の施設計画（案）【資料3】について説明～

推進委員会 委員

- ・鮮魚販売店については、基本構想から重要なポイントとして捉えている。複数あることが望ましいが、関係者へのヒアリング等を行い、庄内の漁業の現状を踏まえて検討を進めていきたいと考えている。ご意見いただきたい。

推進委員会 委員

- ・現道の駅の客層は他県というより庄内地域から来店される方が多く6～7割を占めている。来店動機を考察すると、処理が面倒な鮮魚をリーズナブルに買うことができる、という点が大いと思う。庄内地域の住民が来たくなくなるような品揃え・メニューが重要だ

と感じる。観光施設は観光客のみを相手にすると非常に不安定であり、半径 30～40 km 以内の地元客に来店したいと思われるつくり方が必要である。「ゲートウェイ」だけでなく、「地元・地域」も大事な要素として検討してほしいと思う。

- ・遊佐町では岩ガキやアワビ、サクラマス等について養殖事業が進んでいる。そのまま刺身として食せるようなサービスで、地元ならではの特徴的な食材をアピールすると、庄内地域の人も興味を持つのではないかと思う。

推進委員会 委員

- ・地元の鮮魚を丁寧に処理して、食べ方まで教える等の取り組みを行っている事例もある（萩しーまーと）。地域の住民を大切にするという視点も非常に重要だと思う。鶴岡の新道の駅も鮮魚を重要視しているとの情報もあるため、鶴岡市との情報交換も必要だと思う。
- ・ミニ FM や観光コンシェルジュ等のコンテンツに対する人件費の懸念があるが、次回委員会資料にて概算費用を確認したい。
- ・基本構想では、防災・エネルギー供給の話題も入っていた。ガソリンスタンドの設置についてご意見伺いたい。

推進委員会 委員

- ・防災道の駅に関して、乗用車は将来的に EV 化に向かうことが考えられるが、すぐに EV に切り替わるというわけではないため、ガソリンスタンドの需要はある程度継続すると思われる。ガソリンスタンドを探すため、わざわざ下道に降りるとするのは非常に億劫であると感じる。PAT・防災道の駅を整備するというのであれば、ガソリンスタンドは必要な施設であると思う。

推進委員会 委員

- ・ガソリンスタンドについては、新規に店舗を構えて儲かるか否かということも関係してくると思う。継続して議論が必要な事項である。

推進委員会 委員

- ・現道の駅近くにはガソリンスタンド（遊佐石油）があるが、道の駅移転に伴う、事業者の意向・内情等について、ヒアリングで得られた回答があればお聞きしたい。

事務局

- ・今後の自動車社会の動向については、なかなか読めない部分もある。事業者へのヒアリングでは、ガソリンスタンドを含む、エネルギーステーションの必要性は感じている一方、投資に対する不安・リスクを感じているようだった。エネルギーステーション機能

の具体・必要性を継続して検討していきたい。

(3) 事業スキーム（案）について【資料4】

～事業スキーム（案）について【資料4】について説明～

推進委員会 委員

- ・道の駅全体の運営に関心を示している2社について、第三セクターと組んで運営を実施する場合、第三セクターが今まで運営を行ってきた物販・産直は、第三セクターにノウハウがある前提であったが、民間事業者側でノウハウを持っており、意欲を示した場合には、第三セクターが担う運営範囲を変えていくことは可能なのか、確認したい。

PCKK

- ・ヒアリング調査の中では、第三セクターに代わって運営を実施したいという意欲を示した民間事業者が2社あった。また、その際に第三セクターの雇用やノウハウを継承するという部分にも理解を示していただいている。町側の考え方がまとまっているわけではないが、第三セクターとの関係をどのように構築するか、業務範囲をどのようにするのか等については今後の課題だと捉えている。

推進委員会 委員

- ・民間事業者のみで運営を実施できるのであれば、第三セクターには公共的な役割（施設管理等）を担ってもらい、運営の大部分を民間事業者に任せるような役割分担でもいいのではと思う。

事務局

- ・第三セクターに代わって民間事業者に任せる等、運営の具体的な部分までは議論ができてないのが現状である。今後第三セクターの考え方も確認しながら整理していきたい。

推進委員会 委員

- ・民間事業者の意欲を高めるような役割分担・業務の配分について、整理を進めてほしいと思う。

推進委員会 委員

- ・強く意欲を示している事業者がある限り、民間事業者の参画しやすい方向で進めてほしいと考えている。貴委員の発言を支持するので、積極的に意見してほしい。
- ・PAT整備計画に対する町の方針としても、収益部分は民間で、非収益部分は公共で、と

いう基本的な考え方がある。ぜひ計画に生かしてもらいたい。

推進委員会 委員

- ・道の駅運営事業者、まちづくり事業者、それぞれ関心を示している民間事業者がどのような業種かお聞きしたい。
- ・まちづくり事業に対しては 6 社が関心を示しているが、説明を聞いてもイメージがつかみにくい。この事業の目的は、ボランティア的要素が強いのか、ビジネスとしても考えているのか、という疑問がある。指定管理料が発生するため、まちづくり事業の目的をはっきりさせる必要があると感じる。道の駅運営事業はある程度リスクを持って実施されることとなるが、まちづくり事業に対してどのような機関でどのように評価するのか、お聞きしたい。

PCKK

- ・道の駅運営事業は、全国の道の駅運営を実施している事業者が 1 社、庄内地域で小売業を営んでいる事業者が 1 社、関心を示している。テナントについては、鮮魚・観光案内・フルーツ小売り等の事業者が関心を示している。
- ・まちづくり事業については、直営店を運営している事業者ではなく、エネルギーや建設関連の事業者が関心を示している。まちづくり事業は、観光等に関する活きた情報を発信する役割を基本とし、観光案内施設の運営維持管理費用が主な指定管理料の中身と考えている。その他の機能は基本的に民間事業者による独立採算としての側面が強く、これをビジネスとして捉えるか否かは、事業者の捉え方次第だが、ヒアリング調査ではこの事業をビジネスチャンスと捉えている事業者も複数いた。現段階では、まちづくり事業の内容が煮詰まっていない状況である。

推進委員会 委員

- ・まちづくり事業として、ただの観光情報発信を想定している事業者は少ないと思う。しっかりとビジネスチャンスとして組み立てていく前提で考えるべき。今の内容では不満がある。
- ・具体的に考えるうえで、PAT 内で実施して良いこと、ダメなこと、の線引きが分からない。民間事業者がある程度自由に事業を展開できるようにしてほしい。

PCKK

- ・B まちづくり事業については、PAT 敷地内だけでなく周辺公有地も活用することとしている。そのうえで、PAT 内で実施できる機能として観光情報の発信などの機能を主軸としている。なお、B まちづくりとして何をやっていくのかについては、事業の中身を煮詰める必要があり、そのために民間事業者との継続的な対話が必要と考えている。

推進委員会 委員

- ・ビジネスとしてまちづくり事業が実施できれば良いが、出来なければ第二町役場やボランティア活動のような状態になってしまう。テナントと同じように「自己の事業を展開することで地域を活性化する」というようなことが、理想形なのではと思う。道の駅だけでなく集落で観光事業が広がっていく、というような事例もある。事業を実施しながら地域づくりができると思う。
- ・事業スキームは、パターンでいうと、真ん中の新しい組織を立ち上げる案が良い気がするが、大げさなものでなくてよいと思う。委員会ですべて固めてしまう前に、町民や町内の事業者自由に発言してもらう機会があっても良いと思う。

推進委員会 委員

- ・同年代の若手経営者から、PAT 整備事業について頻繁に問い合わせを受けることがあり、話をすればするほどアイデアが出てくるといった状況である。より良い運営にするためにも、民間事業者からの提案を受け入れやすい環境を作ってほしいと思う。特にまちづくり事業の部分では、アイデアもあり想いも強いため、ヒアリング調査対象でなかった事業者にも話を聞いた方が良いと思う。

推進委員会 委員

- ・道の駅の中において、民間事業者の元気が全体の元気に大きく関わると思う。道の駅「ららん藤岡」では、5年周期でテナントが入れ替わっており、テナント代が固定のため、事業者が頑張れば頑張るほど収益が上がる仕組みとなっている。また、同時に道の駅全体にも集客が増えるという相乗効果がある。第三セクターからのトップダウンではなく、テナントとなる民間事業者からのボトムアップで運営をしていくようなことが理想である。
- ・多種多様なテナントに参画してほしいが、鮮魚店については高齢化が進んでおり、仕入れの面で懸念がある。

5. その他

事務局

- ・次回は、7月に最終第7回推進委員会を開催予定であり、これまでの委員会で出たご意見をまとめ、町へ答申していただく予定である。

6. 閉会